

平成20年7月31日

高松市長 大西秀人様

高松市塩江地区地域審議会  
会長 黒川 恵



建設計画に係る平成21年度および22年度実施事業に関する  
意見の取りまとめについて（回答）

盛夏の候 貴職におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平成20年5月22日付け高企第15号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答いたします。

また、建設計画における、「統合小学校の建設事業」についての留意点も、併せて付帯意見として申し添えます。

合併後、早いもので3年を迎えようとしております。この間、新市としての一体化が進められておると存じますが、建設計画の残された期間内に、事業が計画的に進められ、市域の均衡ある発展が図れるよう、今後とも御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

## 建設計画に係る平成21年度および22年度実施事業に関する意見について

地区名：塩江地区

番号	項目	意見の内容
1	教育環境の整備	<p>塩江地区の現在の小中学校は、耐震診断の結果、耐震基準を満たしておらず、大地震時に崩壊の危険性があります。塩江地区学校統合事業について事業計画案が示され、そのタイムスケジュールでは、早くも平成26年4月の開校となっていますが、中国の四川大地震や岩手・宮城内陸地震をいうまでもなく、震災は、いつどこで発生するか予測が困難な災害です。</p> <p>学校は、子どもたちの生活や学習の場であるとともに、災害時には住民の避難所にもなる地域にとって重要な場所です。また、小学校統合後の跡施設利用を考える上にも耐震化工事は避けられないと考えます。</p> <p>このことから、地区内小中学校のできる限り早急な耐震補強工事を要望するものです。</p>
2	コミュニティ活動拠点の充実整備	<p>現在の公民館は、旧塩江町庁舎2階の会議室・事務室をそのままの施設設備で利用しているため、本来の公民館としての機能とは著しくかけ離れております。</p> <p>旧市内では、公民館がコミュニティセンターへと順次移行し、整備が進んでおりますが、塩江地区の公民館は、設備面で大きく劣っております。文化活動においても他の地域との「格差」が助長されていくのではないかと危惧されます。均衡の取れた市域発展のため、施設整備は不可欠と考えます。</p> <p>塩江地区においても、塩江公民館が平成21年度から、市が指定管理者に運営を委託するコミュニティセンターへ移行するものと思われまます。この機会を捉え、名実ともにまちづくり活動の拠点にふさわしい施設として、和室や調理室の早急な整備と共に、出入口やトイレなども、ユニバーサルデザインの視点に立って、バリアフリー化を図ることを強く望みます。</p>
3	「ループしおのえ」の巡回バス運行	<p>ループしおのえは、塩江地区に施設整備がされているにもかかわらず、塩江地区を巡回していないのが現状です。</p> <p>平成18年5月23日に開催された地域審議会において、送迎バスの道の駅までの延長を要望したところ、「道の駅周辺からの施設利用者やルートの延長の要望がどれほどあるかを把握する中で、送迎バスの需要が相当にあり、新たに乗降所を設置することで施設の利用者が増加すると見込めた場合には、コースの見直しについて指定管理者と協議を行いたいと存じます。」との回答でした。</p> <p>回答後、2年が経過し、塩江地区内での送迎バスを要望する声も有り、途中区間のバス停での乗降を可能にすることで利用者の利便性を向上させ、利用者の増加が見込まれることから、道の駅までの送迎バス運行を望みます。</p> <p>このことから、地区内での運行の再開と運行形態について、指定管理者との協議をお願いするものです。</p>
4	支所機能の整備	<p>塩江地域は、少子高齢で公共交通の利便性が悪い、著しく過疎の進む山間地域です。建設計画を進める中で、地域の個性や実情に合った特色あるまちづくりを進め、市域の均衡ある発展を図ることが必要と考えます。</p> <p>地域づくりの継続と一層の発展、住民サービスの向上を図るため、ワンストップ機能強化を進め、支所において横断的な判断と決定ができる調整機能を持たせるなど総合的な対応ができる支所機能の充実を望みます。</p>